

国語科（国語総合）学習指導案

唐代の詩文

～唐詩～

（高等学校 第1学年）

神奈川県立総合教育センター



【『平成 20 年度研究指定校共同研究事業（高等学校）授業改善の組織的な取組に向けて』
平成 21 年 3 月】

平成 20 年度研究指定校である光陵高等学校において、授業改善に向けた組織的な取組として授業実践を行った学習指導案です。

唐詩を暗唱した後で、作品に描かれた情景や作者の心情などについて既習の知識を活用してグループ討議や発表を行う学習指導を行いました。

光陵高等学校「国語総合」学習指導案

1 学 年 第 1 学年

2 科目名 国語総合

3 単元名(教科書名) 唐代の詩文 唐詩 (東京書籍「国語総合(古典編)」)

4 単元の目標

- ・言語文化や伝統に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりしようとする。
- ・唐詩に表れた思想や感情を的確に読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。
- ・唐詩の理解に役立つための構成、音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等について理解し、知識を身に付ける。

5 単元について

教材観・題材観

漢詩は、日本文学や日本文化に多大な影響を及ぼした芸術である。特に近体詩が完成した唐代は、杜甫・李白を始めとして中国文学の代表的詩人を輩出した時代であり、彼らの作品には、簡潔で緊密な構成の中にスケールの大きい情景、骨太の思想、繊細な感情等が描かれる。それを表面的に解釈することにとどまらず、唐詩がもつ視覚的、聴覚的特徴を意識して、作者の心情に踏み込んで読み取ることで、生徒は言語文化や伝統に対する関心を深め、自分のものの見方、考え方、感じ方を豊かにすることができる。

生徒観(生徒の状況)

漢詩文の学習について、訓読の方法等を理解している生徒は多いが、その面白みや深い味わい等についてまで進んで理解したり表現したりしようとする生徒は少ない。そのため生徒の中には、通釈や口語訳ができれば、それで満足してしまうような生徒もいる。

指導観(主な支援)

作品を訓読し通釈させるだけでなく、唐詩の構成や視覚的、聴覚的特徴がどのように作者の思想、感情等にかかわっているのかを考えさせたい。また、生徒自身が主体となって、詩をどうしたら効果的に分かりやすく他者に伝えることができるかについて、お互いに意見を交換させることにより、個々のものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりして、読む力を高めるとともに、表現する力も高めたい。

6 解決を目指す課題

生徒が、知識を習得することや与えられた課題をこなすことで満足してしまっている状況が大きな課題である。国語においては、身に付けた知識を活用して、作品に描かれた情景、思想、感情等について発展的に考えを深め、自分の考えを分かりやすく他者に伝える力を養うことを目指した。

7 課題解決の方法

唐詩を暗唱し、構成や語句の知識を習得した後、それらの知識を活用して、詩を絵やドラマに置き換える。絵にする場合には、起承転結という構成を確かめて、作品に描かれた情景、心情がどのように関係し、表現されているかを考える。また、ドラマにする場合には、作者の心情がどのように描かれているかを聴覚的な情景描写を踏まえて読み取ることにより、生徒の想像力を喚

起させる。さらに、グループでお互いに意見を交換し、協力しながら、唐詩を基にした朗読訳(ワークシート参照)を作成し、効果的でわかりやすい発表の仕方について討議し、実際に発表する。

8 課題解決の状況を確認する方法

- ・朗読や暗唱発表の観察
- ・ワークシートの記述内容の分析(絵、朗読訳作品、朗読発表評価シート、振り返りシート等)
- ・グループワークの観察

9 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の時間数 4 時間扱い(1 時間の授業は 90 分)

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
唐詩について、叙述に即して内容を的確に読み取ったり、表現に即して読み味わったりして、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりしようとしている。	唐詩を読んで、構成を確かめて、表現の特色をとらえている。 唐詩に描かれた情景、心情などを表現に即して読み味わい、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりしている。	唐詩の構成、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を身に付けている。 文語のきまり、訓読のきまりなどについて理解している。

(3) 指導と評価の計画

時	学習内容	指導内容	評価規準 (評価の観点)	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・近体詩の形式について理解する。 ・五言絶句の朗読、暗唱、語句の解釈、通釈をする。 ・杜甫についての人物像を理解する。 ・杜甫の『絶句』の構成や視覚的特徴、作者の心情等について考え、四コマの絵にする。 ・グループに分かれ四コマ作品の発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近体詩の構成、対句、押韻等について理解させる。 ・朗読させ、一部を暗唱させる。 ・杜甫の生涯や詩を作成したときの状況等を説明する。 ・『絶句』の視覚的特徴について理解させる。 ・参考として、絵本『夜明け』や四コマ漫画等を紹介する。 ・起承転結の構成を意識して四コマの絵にするよう指示する。 ・発表においては、詩の暗唱をさせる。 ・心情等をどのように表現したか自分の作品の工夫した点について説明させる。 	知識・理解 評価規準は「9(2)単元の評価規準」に対応する。 読む能力	暗唱発表の観察 ワークシートの記述
2	<ul style="list-style-type: none"> ・七言絶句の朗読、暗唱、語句の解釈、通釈をする。 ・李白の人物像について理解する。 ・『早に白帝城を発す』、『涼州詞』の構成や聴覚的特徴、作者の心情等について考 	<ul style="list-style-type: none"> ・朗読させ、一部を暗唱させる。 ・李白の生涯や詩を作成したときの状況を説明する。 ・『早に白帝城を発す』、『涼州詞』の聴覚的特徴について理解させるため、参考として、効果音(猿 	知識・理解 読む能力	暗唱発表の観察 ワークシートの記述

	え、ドラマの文章を作成する。	の声や琵琶の音等)のテープを聴かせ、ドラマ化するにあたって効果音を考えさせる。		
3	<ul style="list-style-type: none"> 李白の『友人を送る』の朗読、暗唱をする。 語句の解釈、通釈をする。 詩の構成や視覚的特徴、作者の心情等について考え、四コマの絵にする。 朗読をするための訳を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 『友人を送る』を朗読、暗唱させる。 「浮雲」「落日」などの詩中の語句がどういう比喻で使われているかを考えさせる。 「孤蓬」「浮雲」「落日」などをどのように表現するのが適切なかを考えさせる。 朗読や群読を意識して、リズムや強調の方法などを考えさせる。 	知識・理解 読む能力	暗唱発表の観察 ワークシートの記述
4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 『友人を送る』を暗唱する。 各自の絵作品、朗読訳を発表する。 グループで一つの朗読文を作成する。 グループごとに全体の前で群読する。 相互評価を行う。 自己評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員で暗唱させる。 3時間目に作成した個々の絵作品と朗読訳をグループ内で発表させる。 各グループで朗読文を作成させ群読の効果的方法を考えさせる。 グループごとに群読させる。 聞く側に、朗読評価シートを書かせる。 自己評価シートを書かせる。 	知識・理解 読む能力 関心・意欲・態度	暗唱発表の観察 ワークシートの記述 グループワークの観察

(4) 観点別評価について

指導と評価の計画に記載した評価規準の一部について、「十分満足できる」状況(A)と判断した具体的状況例と、「努力を要する」状況(C)と評価した生徒への手だてを記載した。評価規準の(時)は指導と評価の計画にある「時」とした。

【関心・意欲・態度】

学習活動における具体的評価規準(4時)	唐詩について、叙述に即して内容を的確に読み取ったり、表現に即して読み味わったりして、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりしようとしている。
「十分満足できる」状況(A)と判断した具体的状況例	積極的にグループの作業に参加し、他人の意見を参考にしながら、叙述に即して内容を的確に読み取ったり、表現に即して読み味わったりして、自分のものの見方、感じ方、考え方を発展的に広げたり深めたりしようとしている。
「努力を要する」状況(C)と評価した生徒への手だて	グループで意見を述べられないような場合には、まず個々のワークシートを記述させ、それをグループ員に伝えるようにさせる。

【読む能力】

学習活動における具体の評価規準（3時）	唐詩に描かれた情景、心情などを表現に即して読み味わい、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりしている。
「十分満足できる」状況(A)と判断した具体的状況例	唐詩に描かれた情景が、作者の心情とどのようにかかわっているかについて、様々に考えを巡らし、表現に即して読み味わい、ものの見方、感じ方、考え方を発展的に広げたり深めたりして表現している。
「努力を要する」状況(C)と評価した生徒への手だて	唐詩を絵やドラマに置き換えたり、朗読訳を作ったりする学習活動に取り組めないような場合には、便覧や作品例等の資料を参考にして、そこから自分の考えを広げるようにさせる。

【知識・理解】

学習活動における具体の評価規準（3時）	文語のきまり、訓読のきまりなどについて理解している。
「十分満足できる」状況(A)と判断した具体的状況例	文語のきまり、訓読のきまりなどを十分に理解し、これらを意識して他人に明確に伝わるような朗読、暗唱ができています。
「努力を要する」状況(C)と評価した生徒への手だて	朗読、暗唱の小テストを通して、文語のきまり、訓読のきまりを個別に確認する。

10 本時の展開（単元の4時間目）

(1) 本時の目標

李白の『友人を送る』を四コマの絵作品にしたり、朗読訳を作ったりする学習活動の中で、唐詩の構成や視覚的、聴覚的特徴がどのように作者の思想、感情等にかかわっているのかを、考えさせる。

生徒自身が主体となって、詩をどうしたら効果的に分かりやすく他者に伝えることができるかについて、お互いに意見を交換させることにより、個々のものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりして、読む力を高めるとともに、表現する力も高める。

(2) 本時の指導過程

過程	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
0～10分 (10分)	・李白の『友人を送る』を暗唱する。	・全員起立させ暗唱させる。	・大きな声で明確に発音することに留意させる。	知識・理解 (暗唱発表の観察)
10～20分 (10分)	・個々の作品をグループ内で発表する。	・3時間目に各自が作成した絵を朗読訳とともにグループ内で順番に発表させる。	・自分が工夫した点についても説明させる。 ・グループは原則5人とする。	
20～50分 (30分)	・グループで一つの朗読文を作成する。(グループワーク)	・グループ内で代表作品を選び、それを基に協力して	・朗読文は、リズム、脚韻、リフレインの仕方、強調の方	読む能力 (ワークシートの記述)

50～60分 (10分)	・発表の準備をする。	朗読文を作成させる。 ・グループ内で作成した朗読訳を群読させる。	法、イメージの膨らませ方等を考えさせる。 ・群読の方法を考えさせる。	関心・意欲・態度 (グループワークの観察)
60～80分 (20分)	・全体の前で発表する。 ・相互評価を行う。	・グループごとに前に出て発表をさせる。	・投影機を使い、グループ内で代表作品とした絵を黒板に投影する。 ・朗読発表後に絵や朗読で工夫した点について、説明させる。 ・聞く側の生徒に評価シートを書かせる。	
80～90分 (10分)	・まとめ 振り返りシートで自己評価を行う。	・唐詩学習について振り返り、自己評価をさせる		

11 解決を目指した課題の解決の状況

振り返りシートでは、「唐詩を絵にする学習活動」「唐詩を朗読訳にする学習活動」「グループで話し合い群読の方法を考えさせる学習活動」のいずれの学習活動についても、90%以上の生徒が、唐詩に対する理解が深まったと回答した。実際に生徒が作成した四コマの絵を見ても、起承転結の構成を的確に読み取り、表現の特色を想像力豊かにとらえている作品が多く、これらの学習活動を通して、各自が、作者の心情について様々に考えを巡らし、ものの見方、感じ方、考え方を発展的に広げたり深めたりしている様子が見て取れた。また、グループで話し合っ、朗読、群読方法を考えさせる場面では、どのようにしたら、作者の心情を効果的に表現することができるか、詩のイメージを膨らませることができるか等について積極的に意見が交換され、各自が身に付けた知識を活用して、作品に描かれた情景、思想、感情等についてまで発展的に考えを巡らしており、発表においては、どのグループも、主体的に自分たちの考えを分かりやすく他者に伝えようとしていた。

12 授業実践に関する成果と課題

今回の授業実践では、どの生徒も予想以上に積極的に学習活動に臨んだ。生徒にとっては、唐詩や漢文は比較的取り組みにくい教材のようであり、今までの学習では、あまり興味をもてない生徒も多くいた。そのような生徒たちにとっても、今回のように絵や朗読訳にするというような学習活動は新鮮に感じられたようであり、「イメージを膨らませることができた」「自分が詩に対してどのような考えをもっているかが明確になった」等の授業に対する好意的な感想がほとんどであった。このような授業を行うことで、あらかじめ考えていた「表面的に解釈することにとどまることなく、唐詩がもつ視覚的、聴覚的特徴を意識して、作者の心情に踏み込んで読み取るこ

平成 20 年度神奈川県立総合教育センター『授業改善の組織的な取組に向けて』学習指導案・資料
とで、言語文化や伝統に対する関心を深め、自分のものの見方、考え方、感じ方を豊かにする」という目標はおおむな達成できたと考えられる。

授業は 1 コマを 90 分で展開したが、今回のような学習活動は比較的時間が必要で、1 コマで 2 作品程度しか取り上げることができないことが課題である。

今回のような学習活動を行う効果や意義については確認ができたので、今後この学習活動を通して養われた力を他の唐詩作品や他の言語作品の読解にも活用、応用していけるように実践を重ね、研究を続けていきたい。

唐詩ワークシート

() HR NO () NAME ()

李白の「友人を送る」の朗読訳をつくろう! (グループワーク)

題 (朗読訳 :)

首聯

朗読訳

頷聯

朗読訳

頸聯

朗読訳

尾聯

朗読訳

唐詩ワークシート

() HR NO () NAME ()

李白の「友人を送る」を < 群読 > しよう！ (グループワーク)

朗読文をグループで群読してみましょう。(次のようなことを考えてみましょう。)

どの言葉を強調したいか？

強調の方法 強く読む・リフレイン・何人かで声をそろえて読む・次第に声を大きくする・声に変化をつける等々

どうすればイメージがふくらむか？

イメージをふくらませる方法 感情をこめて読む・もとの詩にない言葉でイメージを補足する。

群読例 (ABCDE 五人構成)

題 (君は 空ゆく ちぎれ雲) 最初に A が大きな声でいう。

首聯
A 青き山なみ (普通に) B 青き山なみ (やや強く) C 北のかた (普通に) D 北のかた (やや弱く)
A 東にひかる (普通に) B 東にひかる (やや強く) C 川のなみ (普通に) D 川のなみ (やや弱く)

頷聯
AB ひとたび町を去りゆけば (一気にだんだん強く) CD ひとたび町を去りゆけば (一気にだんだん強く)
AB 木枯らしに舞う根無し草 (一気にだんだん強く) CD 木枯らしに舞う根無し草 (一気にだんだん強く)

頸聯
ABCDE (五人いっしょに) きみは空ゆくちぎれ雲 (強く・感情をこめて)
ABCDE (五人いっしょに) 沈む夕陽はわがうれしい (強く・感情をこめて)

尾聯
AB さらばと友の (やや強く) CD むち鳴れば (やや強く)
E 馬いななきて (声をふるわせる) E しゅんじゅんす (だんだん弱く)

唐詩ワークシート

() HR NO () NAME ()

李白の「友人を送る」を < 群読 > しよう！ (グループワーク)

朗読文をグループで群読してみましょう。(次のようなことを考えてみましょう。)

どの言葉を強調したいか？

強調の方法 強く読む・リフレイン・何人かで声をそろえて読む・次第に声を大きくする・声に変化をつける等々

どうすればイメージがふくらむか？

イメージをふくらませる方法 感情をこめて読む・もとの詩にない言葉でイメージを補足する。

生徒の群読作品 (ABCDE 五人構成 ABC = 女子、DE = 男子)

題 (再見 我 的 朋友 ザイジエン ウォ ダ ポンヨウ) インパクトをつけるために中国語で A が大きな声でいう。

首聯

北には青い 山々が (A がゆっくりと朗読)

東に流れる 清き水 (B がゆっくりと朗読)

(対句を意識して朗読する)

頷聯

ふわりと舞った (D が朗読) 葉のように (E が朗読)

君はさすらう (C が朗読) 遠くへと (続けて C が朗読)

(七・五調を意識して朗読する)

頸聯

浮雲のように (D が朗読) - (少し間をおいて) - 君の行方は つかめない (ABCE が 4 人でいっしょに合わせて朗読)

夕日のように (D が朗読) - (少し間をおいて) - 別れのつらさ 沈みゆく (ABCE が 4 人でいっしょに合わせて朗読)

(全体に頸聯を強調する)

尾聯

別れを告げた (全員で一緒に合わせて朗読) その後 (女子だけで朗読)

切なく鳴いた (男子だけで朗読) 別れゆく馬 (A が一人で寂しそうに読む)

(少しずつ人数を減らし寂しさを出す)

李白の「友人を送る」を四コマの絵にしよう！

() (H R N O) () (名前) ()

頸聯

首聯

尾聯

頷聯

平成20年度神奈川県立総合教育センター『授業改善の組織的な取組に向けて』学習指導案・資料
唐詩の学習 < 朗読発表 > 評価シート

発表を聞いて、下の表を完成させましょう

組 番 名 前

各グループの発表を聞きながらお互いに評価をし、良い群読とはどういうものか考えてみよう。

作業 : 5段階評価をして、下の一覧表に数字入れること。

5 = 大変良い 4 = 良い 3 = 普通 2 = もう少し工夫が必要 1 = 工夫が必要

評価の観点：

- 声の大きさ・明確さ 一人ひとりの声は大きく出ている、わかりやすくはっきりしていたか。
- 強調の仕方 朗読する語句の強弱に工夫がなされていたか。
- 感情の表現 朗読に感情が込められていて、聞いていて詩のイメージがふくらんだか。
- グループ員の協力 みんなで協力して朗読していたか。

順番	グループ代表者名	声の大きさ・明確さ	強調の仕方	感情の表現	グループ員の協力	総合評価
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						

朗読最優秀グループ

次点グループ